令和3年度 学校教育自己診断集計結果

生 徒	· · · · · · · · · · · · · · · · · · ·	結果と考察
R1 34 36 14 3 0 87 80.5% 19.5% 0.0%	R1 34 29 8 0 1 72 87.5% 11.1% 1.4%	・生徒【学校へ行くのが楽しい】の肯定率が84.4%。3年間で最も高い。一方で「まったくあてはまらない」の生徒が3年間では最も多いことが気にかかる。【学校行事は楽しみである】も肯定率が83.3%と高いが、「まったくあてはまらない」の生徒が3年間では最も多い。学校を「楽しい場所」と感じられない生徒
Y 対	すっている。	がいることの意味は重く、全ての生徒が学校生活を楽しみに登校できるような工夫が求められ、また、生徒の表情や心の機微を見逃さないことがより重要となる。 ・保護者【子どもは学校へ行くのを楽しみにしている】の肯定率が91.1%。3年間で最も高く、学校への信頼・安心感につな
校生 14 学校行事は楽しみである R2 50 28 5 5 0 88 88.6% 11.4% 0.0% R3 50 25 7 8 0 90 83.3% 16.7% 0.0%	校生 20 学校行事は、生徒に合わせて工夫 R2 45 37 2 0 3 87 94.3% 2.3% 3.4% R2 90.8% 7.5% 生 7 きるよう、適切な支援が行われてい R2 14 24 3 1 0 42 90.5% 9.5% 0.0% R2 90.5% 9.5% 0.0% P2 90.5% 9.5% 0.0%	がっていると思われる。 ・教員【教員は行事や特別活動が魅力あるものとなるよう工 夫、改善を行っている】の肯定率は3年間で95.5%⇒90.5%⇒ 85.4%と段階的に低下。「もっと工夫ができる」という厳しい観
R1 24 44 12 6 1 87 78.2% 20.7% 1.1% R1 80.5% 18.8%		点をもつ教員増か、具体的な行事等に限定する意見か分析 が必要。
R3 28 35 19 8 0 90 70.0% 30.0% 0.0% R3 76.7% 20.7% 10 1 1 1 1 1 1 1 1		・生徒【授業はわかりやすい】【先生は授業の内容や教え方な ど工夫している】の肯定率に3年間で大きな変化はなく、80% 後半~90%前半の高水準。【授業中に自分の考えを伝える機
2 授業はわかりやすい R2 36 42 7 3 0 88 88.6% 11.4% 0.0% R3 39 41 7 2 1 90 88.9% 10.0% 1.1%	6 子どもは、授業がわかりやずいと R2 26 49 11 0 1 87 86.2% 12.6% 1.1% R2 左に同じ 1 教員はわかりやずい授業となるよう R2 14 24 4 0 0 42 90.5% 9.5% 0.0% 1.1% R2 R2 R2 R2 R2 R2 R2 R	会が多い。発表することが多い】の肯定率が3年間で62.1%⇒80.7%⇒75.6%。生徒の思考力を高め、まとめ、発表する機会の多い授業が求められている。 ・保護者【子どもは授業がわかりやすいといっている】の肯定率は92.2%と3年間で最も高く、学校への信頼・安心感につな
授業中に自分の考えを伝える機会が多い。発表することが多い。 R1 23 31 26 7 0 87 62.1% 37.9% 0.0% R2 31 40 13 4 0 88 80.7% 19.3% 0.0% R2 31 40 13 4 0 88 80.7% 19.3% 0.0% R2 31 40 13 4 0 88 80.7% 19.3% 0.0% R2 31 40 13 4 0 88 80.7% 19.3% 0.0% R2 31 40 80 85 80.7% 19.3% 0.0% R2 31 40 80 85 80 80 80 80 80 80 80 80 80 80 80 80 80	* 天している。	がっている。 ・教員【わかりやすい授業の工夫】の肯定率は3年間で大きな変化はなく、90%前半と高水準。【自立活動の工夫】の肯定率は72.7%⇒69.0%⇒65.9と段階的に低下。自立活動は下校前の30分間だけでなく、すべての授業において実施することが
R3 40 28 15 6 1 90 75.6% 23.3% 1.1% R1 44 36 5 2 0 87 92.0% 8.0% 0.0% R1 80.5% 19.5% 先生は授業の内容や教え方などエ R2 38 40 7 3 0 88 88.6% 11.4% 0.0% R2 86.0% 14.0%	R3 10 17 10 4 0 41 65.9% 34.1% 0.0%	求められている。「授業内で工夫をしたいが、どのように考えたら良いか」という探求心の表れで、校内研修の実施や先輩教員から経験年数の少ない教員への助言などが求められる。【ICT機器の活用】の肯定率は91.1%と3年間で最も高い。教員が研修等の活用により機器の操作に慣れてきていること
大している。	PRO投来などで活用されている。	や、生徒の反応が感じられることが、さらなる教員の意識や技 術の向上につながっている。
5 将来の進路や生き方について考える機会がある。 R1 44 35 6 2 0 87 90.8% 9.2% 0.0% R2 50 31 4 3 0 88 92.0% 8.0% 0.0%	13 学校は将来の進路や職業などにつ R1 41 30 0 0 1 72 98.6% 0.0% 1.4% R1 12 生徒が将来の進路や生き方につい R2 41 37 8 0 1 87 89.7% 9.2% 1.1% R2 左に同じ T2 生徒が将来の進路や生き方につい R2 22 17 2 1 0 44 95.5% 4.5% 0.0% R2 22 17 2 1 0 42 92.9% 7.1% 0.0% R3 R3 R3 R3 R3 R3 R3 R	イルス感染症による、漠然とした「将来への不安」が影響か。本校は「就労を通じた自立をめざす学校」であり、生徒への情報提供、進路を自分事として考える力の育成には今後も力を入れていく。【先生以外からの外部の方から、進路に関する話を聞くのはためになったと思う】の肯定率は88.9%と3年間で最も高い。生徒の知っている企業や先輩からの直接的で具体的な
進 音 学校は進路についての情報を知ら R2 53 32 1 2 0 88 96.6% 3.4% 0.0%	路 興味・関心、適正に応じて進路選択 10 10 10 10 10 10 10 1	声が、生徒の進路に対する意欲に好影響。今後も外部講師の活用を継続していく。 ・保護者【学校は将来の進路や職業などについて適切な指導を行っている】の肯定率は、94.4%と高水準だが、「あまりあてはまらない」が一部ある。学校として、引き続き生徒の成長を通じて保護者に進路指導の「適切さ」を伝えるようにしていきたい。
指導 せてくれる。	指 導 「行っている。 R3 25 13 2 1 0 41 92.7% 7.3% 0.0% 1 1 0 41 92.7% 7.3% 0.0% 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	・教員【進路指導において、福祉・労働機関等の関係諸機関と緊密な連携ができている】の肯定率は3年間とも90%以上と高水準。今年度は90.2%とやや下がっている。入学時や卒業前の関係機関ケース会議の開催や情報共有に工夫が求められる。地域からの情報を待つだけでなく、学校からの積極的な働きかけが必要。
7 関する話をきくのはためになったと 思2 48 26 11 3 0 88 84.1% 15.9% 0.0% R2 90.9% 9.1% 思う。 R3 47 33 8 2 0 90 88.9% 11.1% 0.0% R3 88.5% 11.5%	Tage 14 等の関係諸機関と緊密な連携がで R2 24 16 2 0 0 42 95.2% 4.8% 0.0% R2 93.7% 6.3% etal 5 でいる。 R3 25 12 4 0 0 41 90.2% 9.8% 0.0% R3 92.7% 7.3% 7.3% R3 R3 R3 R3 R3 R3 R3	・生徒【先生は、みんなの意見を聞いてくれる】の肯定率は
評価 ジャンル No. 生徒 年 1 2 3 4 無 計 肯定 否定 無 年 ジャンル 肯定 ジャンル 否定 8 担任の先生に、困っていることや悩みを相談できる。 R2 34 34 14 5 1 88 77.3% 21.6% 1.1% 1.1%	R1 38 32 2 0 0 72 97.2% 2.8% 0.0% 1 1 1 2 2 3 4 4 4 4 4 5 5 5 5 5	・生徒【先生は、みんなの意見を聞いてくれる】の肯定率は 93.3%。教員の傾聴の姿勢や相談体制が整っていることの表れ。今後も生徒が気軽に相談できる体制を維持していきたい。一方で【学校生活についての指導は納得できる】の肯定率はこれまでの2年間の80%後半水準から大きく下がり、78.9%。背景として、生徒の成長度合い(就労意識が不十分、
R3 38 32 12 8 0 90 77.8% 22.2% 0.0% R1 27 26 22 11 1 87 60.9% 37.9% 1.1%	R3 49 39 1 0 1 90 97.8% 1.1% 1.1% R3 18 18 3 2 0 41 87.8% 12.2% 0.0% R1 19 21 3 1 0 44 90.9% 9.1% 0.0% P1 19 21 3 1 0 44 90.9% 9.1% 0.0% P1 19 21 3 1 0 44 90.9% 9.1% 0.0% P1 19 21 3 1 0 44 90.9% 9.1% 0.0% P1 19 21 3 1 0 44 90.9% 9.1% 0.0% P1 19 21 3 1 0 44 90.9% 9.1% 0.0% P1 19 21 3 1 0 44 90.9% 9.1% 0.0% P1 19 21 3 1 0 44 90.9% 9.1% 0.0% P1 19 21 3 1 0 44 90.9% 9.1% 0.0% P1	言語理解が追い付かない等)とのギャップがあることなどが考えられる。生徒のアセスメントをもとに、生徒の理解が深まる指導が必要。また、生徒視線での疑問等に丁寧に答えることも必要。 ・保護者【子どもの評価】【いじめ対応】【子どもの障がい理解】
9 担任の先生以外に、気軽に困っていることや悩みを話せる。	くれる。 R3 45 38 2 1 4 90 92.2% 3.3% 4.4% R3 20 18 1 2 0 41 92.7% 7.3% 0.0%	【子どもの人権尊重】の肯定率はいずれも90%超。全体的に高い水準。4項目とも90%を超えたのは2年度前。教員への高い信頼性。ただ、【いじめ対応】【子どもの障がい理解】は、今年度のみ「まったくあてはまらない」が一部あり、この受け止
教員に 先生はいじめなどについて困っていることがあれば、真剣に対応してくれる。 R1 41 33 8 5 0 87 85.1% 14.9% 0.0% R2 40 40 4 4 0 88 90.9% 9.1% 0.0% R3 48 33 3 4 2 90 90.0% 7.8% 2.2%	教職員は、子どもの障がいを理解し R2 42 32 9 1 3 87 85.1% 11.5% 3.4% 11 学級担任以外の教職員にも相談す R2 23 17 1 1 0 42 95.2% 4.8% 0.0%	めと今後の行動が重要。 ・教員【生徒の人権尊重】の肯定率は前年度とほぼ同じ 87.8%。2年度前の97.7%と比較すると約10%低い。2年連続で90%に達しない背景には、「日常の教育活動にどのように活かしたら良いか」という自問があるのか。研修等により教員
ついて 17 先生は、自分のことをよく理解してく R1 41 33 8 5 0 87 85.1% 14.9% 0.0% R2 34 41 7 5 1 88 85.2% 13.6% 1.1%	ついて 対職員は、すべての教育活動において、子どもの人権を尊重してい R1 40 26 4 0 2 72 91.7% 5.6% R2 90.2% 6.6% R2 90.2% 80.2% R2 90.2% 6.6% R2 90.2% 6.6% R2 90.2% 6.6% R2 90.2% R	一人ひとりが人権意識を向上させ、高い人権意識をもって生徒に接することが肝要。生徒がそのような教員を手本にして、自らの人権意識を向上させることが理想で、かつてのより高い水準を追い求めたい。【相談体制の整備】の肯定率は前年度までは90%を超えていたが、今年度は87.8%に低下。相談
R3 45 29 8 8 0 90 82.2% 17.8% 0.0% R1 40 36 5 6 0 87 87.4% 12.6% 0.0% サルナルの音目を関いてくわ		体制の工夫や対応教員の増加により、生徒は担任以外にも相談できるようになる。【教職員の服務規律への自覚】の今年度の肯定率は3年間で最も低く73.2%。職場全体で服務規律への意識向上の機運を高めることが必要。
18 元主は、が770なの思光を頂いてくれた R2 39 37 9 3 0 88 86.4% 13.6% 0.0%		
19 学校生活についての先生の指導は納得できる。 R2 36 40 6 6 0 88 86.4% 13.6% 0.0% R2 83.9% 15.7% R3 45 26 15 4 0 90 78.9% 21.1% 0.0% R3 82.8% 16.9%		- ナ 仕
評価 ジャンル No. 生徒 年 1 2 3 4 無 計 肯定 否定 無 年 ジャンル 肯定 否定 人 11 点別はよっかしります。 R1 36 39 8 4 0 87 86.2% 13.8% 0.0% R2 46 34 5 3 0 88 90.9% 90.9% 9.1% 0.0%	学校は、生命を大切にする心や人 - 16 梅を尊重する態度を育てようとして R1 35 31 5 0 1 72 91.7% 6.9% 1.4% R1 R1 R1 R1 R1 R1 R1 R	・生徒【いのちや人権の大切さについての授業はわかりやすい】【社会のルールについての学習はわかりやすい】の肯定率は3年間で大きな変化なく、どちらも90%超。 ・保護者【学校は、生命を大切にする心や人権を尊重する態度を育てようとしている】の肯定率は3年間で最も高く、
学習はわかりたすい。	である。	93.3%。 ・教員【道徳教育は、年間計画に基づき、継続して行っている】は3年間とも肯定が否定よりもやや多い程度で、52.3%⇒ 61.9%⇒65.9%と推移。段階的に上がっているが、他の項目に 比べて低い水準。教員間で年間計画等の共有が十分でない
徳 12 社会のルールについての学習はわ R2 49 32 5 2 0 88 92.0% 8.0% 0.0% R2 91.5% 8.5% R3 50 33 3 4 0 90 92.2% 7.8% 0.0% R3 91.1% 8.9%	(徳) 「重の態度を身につけるよう配慮して R2 21 15 5 1 0 42 85.7% 14.3% 0.0% R2 73.8% 26.2% いる。 R3 20 16 4 1 0 41 87.8% 12.2% 0.0% R3 76.8% 23.2%	ことの表れか。一方で【教員は生徒が命の大切さや人権尊重 の態度を身につけるよう配慮している】の肯定率は3年間とも 85~90%と高水準。
評価 ジャンル No. 生徒 年 1 2 3 4 無 計 肯定 否定 無 年 学ャンル 肯定 ジャンル 否定 性に はに 導其 13 性についての学習は、わかりやす 日2 R1 34 36 10 7 0 87 80.5% 19.5% 0.0% R1 展2 40 37 7 4 0 88 87.5% 12.5% 0.0% R2 左に同じ	性 R1 26 33 5 1 7 72 81.9% 8.3% 9.7% R1	・生徒【性についての学習は、わかりやすい】の肯定率は前年度とほぼ同じで87.8%。学年の生徒の様子に合わせた内容で実施していて、生徒が自分の課題であると認識できている。 ・保護者【性に関する指導は、段階を追って計画的に実施されている】の肯定率は81.9%⇒79.3%⇒74.4%と段階的に低下。原因の掘り下げ必要。 ・教員【性に関する指導は、系統的・計画的に行われている】の肯定率は、
To C To C To To To To	回的に実施されている。	93.2%⇒76.2%⇒68.3%と段階的に低下。前年度から学年の担当教員が実施。学校として性教育の全体像の共有が必要。 ・保護者【学校は個別の指導計画・教育支援計画について、機会を設けて説明している】【個別の指導計画・教育支援計画は、本人・保護者のニーズを踏まえ作成されている】の肯定率
個	学校は個別の指導計画・教育支援 R1 43 28 1 0 0 72 98.0% 1.4% 0.0% 18 支援計画・指導計画は二一ズを踏 R1 23 18 2 1 0 44 93.2% 0.8% 0.0% R1 25 同じ 18 まえ作成し、保護者に開示・説明し R2 22 18 1 1 0 42 95.2% 4.8% 0.0% R2 左に同じ 個 している。	は、本人・保護者のニーズを踏まえ作成されている】の肯定率は3年間とも90%半ば〜後半と非常に高い水準。特に今年度はどちらも98.9%。100%の肯定率目前。 ・教員【ニーズ、開示、説明】の肯定率が3年間とも90%前半〜半ばの高水準。保護者、学校とも両計画が有効なツールと
別 の 支 援	別の支援 個別の指導計画・教育支援計画 R2 46 37 2 0 2 87 95.4% 2.3% R2 95.4% R2	なっている。
評価 ジャンル No. 生徒 年 1 2 3 4 無 計 肯定 否定 無 年 ジャンル 否定	作成されている。 R3 57 32 1 0 0 98.9% 1.1% 0.0% R3 98.9% 1.1% Value Pind No. R3 57 32 1 0 0 9 98.9% 1.1% Value Pind No. R3 57 32 1 0 0 9 98.9% 1.1% Value Pind No. R3 9	・保護者【通知表は、子どもの学習の達成度を適切に評価できるように工夫されている】の肯定率は3年間とも95%以上と
生 徒 評 価	生徒評価 A 参適切に評価できるように工夫されでいる。 R1 38 31 3 0 0 72 95.8% 4.2% 0.0% R1 0.0% R3 A 2.3% R2 をに同じできるように工夫されでいる。 大に同じを設定しませんでいる。 R1 9 25 6 4 0 4 7 1 0 44 77.3% 22.7% 0.0% R1 0.0% R1 0 0.0% R2 0.0% R3	非常に高い水準。今年度は最も高い97.8%。 ・教員【教育活動全般にわたる評価を行い、次年度の計画に 生かしている】は3年間で77.3%⇒81.0%⇒73.2%。
評価 ジャンル No. 生徒 年 1 2 3 4 無 計 肯定 否定 無 年 ジャンル 音定 R1 37 40 8 2 0 87 88.5% 11.5% 0.0% R1	評価 No. 保護者 年 1 2 3 4 無 計 肯定 否定 無 年 ジャンル No. 教 員 年 1 2 3 4 無 計 肯定 否定 無 年 ジャンル No. R1 49 19 4 0 0 72 94.4% 5.6% 0.0% 「	・生徒【地震や火災のなどの学習はわかりやすい】の肯定率は3年間で88~89%で推移。グラウンドへの一次避難、校舎4階への二次避難のルートが明確で、毎年の繰り返しにより生徒に定着。 ・保護者【地震や台風などの場合の対応について、子どもや保護者に周知されている】【学校では、子どもに関するプライバシーが守られている】の肯
16 地震や火災などの学習はわかりや R2 42 37 6 3 0 88 89.8% 10.2% 0.0% R2 左に同じ R3 42 38 8 2 0 90 88.9% 11.1% 0.0% R3	9 いて、子どもや保護者に周知されて R2 53 31 2 0 1 87 96.6% 2.3% 1.1% 19 生徒の個人情報に関する管理シストンが周知されている。 R2 15 23 2 2 0 42 90.5% 9.5% 0.0% 14.6% 0.0% 14.6% 0.0% 14.6% 15.4% 14.6% 15.4% 14.6% 15.4% 14.6% 15.4% 14.6% 15.4% 14.6% 15.4% 14.6% 15.4% 14.6% 15.4% 14.6% 15.4% 14.6% 15.4% 14.6% 15.4% 14.6% 15.4%	定率はどちらも3年間とも90%以上と高い水準。今年度の96.7%、94.4%は3年間で最も高い。引き続き、緊急時への備えを進め、生徒、保護者へ安心感を与えられるようにしていく。 ・教員【生徒の個人情報に関する管理システムが周知されている】の肯定率は86.4%⇒90.5%⇒85.4%。今後も万が一にも無いようにするため、全教員への管理システムの周知を徹底する。【災害等に対して迅速かつ適切
理	学校では、子どもに関するプライバ R2 43 36 5 0 3 87 90.8% 5.7% 3.4% R2 93.7% 4.0% 21 処ができるよう、防災計画が整備さ R2 23 17 1 0 42 95.2% 4.8% 0.0% R2 92.9% 7.1%	な対処ができるよう、防災計画が整備されている】の肯定率は3年間とも90%前半〜半ばの高水準。全教員に防災マニュアルを配付、避難訓練ごとに内容の周知。生徒、保護者の意識も高い状況から、より高度な防災計画の策定をめざし、PTAや地域と連携するなどの工夫をしていく。
評価 ジャンル No. 生徒 年 1 2 3 4 無 計 肯定 青定 否定 無 年 ジャンル 肯定 否定	学校は教育活動全般について、子 R1 29 41 2 0 0 72 97.2% 2.8% 0.0%	・保護者【学校は教育活動全般について、子どもや保護者の願いによく応えている】の肯定率は3年間とも95%前後と非常に高い水準。【学校が保護者に出す文書・事務連絡等がわかりやすい】の肯定率は3年間とも90%以上と高い水準。今年度は98.7%に関連されている。
	2 どもや保護者の願いによく応えてい R2 31 52 3 0 1 87 95.4% 3.4% 1.1%	度は96.7%と最も高い。【学校は、保護者の子どものことについての悩みや相談に適切に応じてくれる】の肯定率は87.5%⇒90.8%⇒93.3%と段階的に上昇。日々の担任業務としての保護者対応が適切であることに加え、スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカーによる保護者面談を実施し、その供数が増えている。「学校は
家	マ 学校が保護者に出す文書・事務連絡等がわかりやすい。 R2 33 47 7 0 0 87 92.0% 8.0% 0.0% R3 41 46 3 0 0 90 96.7% 3.3% 0.0%	件数が増えていることも高評価につながっている。【学校は、教育方針をわかりやすく伝えている】の肯定率は3年間とも95%前後と非常に高い水準。学校からの文書やホームページによる広報活動に有用性がある。【学校の授業参観や学校行事に積極的に参加している】の肯定率は83.3%⇒75.9%⇒
庭 と の 相 互	度との相互	80.0%。この2年間は新型コロナウイルス感染症の影響により、授業参観等の機会に来校を控えている保護者あり。
理 解	理 R3 48 36 6 0 0 99 93.3% 6.7% 0.0% 理 解 P1 35 36 1 0 0 72 98.6% 1.4% 0.0% 解 P2 43 38 5 0 1 87 93.1% 5.7% 1.1% P2 P3	
	R3 42 45 3 0 0 90 96.7% 3.3% 0.0% R1 29 31 9 2 1 72 83.3% 15.3% R1 91.9% 6.9%	
評価 No 生体	14 学校の授業参観や学校行事に積極 R2 30 36 18 3 0 87 75.9% 24.1% 0.0% R2 89.4% 9.7% R3 36 36 15 3 0 90 80.0% 20.0% 0.0% R3 92.2% 7.6% 24.1% 10.0%	・保護者【学習の内容・様子を懇談や連絡帳によって 知るこ
評価 ジャンル No. 生徒 年 1 2 3 4 無 計 情定 音定 否定 無 年 学ャンル 肯定 否定	学習の内容・学校生活の様子を懇 R1 38 31 2 0 1 72 95.8% 2.8% 1.4%	・保護者【学習の内容・様子を懇談や連絡帳によって、知ることができる】の肯定率は3年間とも95%以上と非常に高い水準。今年度は97.8%と3年間で最も高い。100%の肯定率が目前。【学校のホームページはわかりやすい】の肯定率は81.9%⇒77.0%⇒84.4%。【学校以外の相談機関の情報を学校から入手できる】の肯定率は70.8%⇒73.6%⇒81.6%と段階的に
情	できる。 R3 54 34 1 1 0 90 97.8% 2.2% 0.0% R3 15 20 5 1 0 41 85.4% 14.6% 0.0% R3 15 20 5 1 0 44 81.8% 18.2% 0.0% R1 80.7% 19.3% 情情 学校のホームページはわかりやす	上昇。【学校は、保護者や地域の人たちから意見を聞く機会を持っている】の肯定率は84.7%⇒79.3%⇒91.1%と推移。今年度が最も高い。 ・教員【情報提供の手段として、学校のホームページが活用されている】の肯定率は79.5%⇒81.0%⇒85.4%と段階的上
報 発 信 地		れている】の肯定率は79.5%⇒81.0%⇒85.4%と段階的上昇。もう一工夫する必要。【教育活動に必要な情報について、生徒・保護者や地域への周知に努めている】の肯定率は81.8%⇒90.5%⇒82.9%。
域 連 携	地域連携	
	R1	
評価 ジャンル No. 生徒 年 1 2 3 4 無 計 肯定 否定 無 年 ジャンル 否定 交流	$ P_1 _{35} _{31} _{5} _{0} _{1} _{72} _{9176} _{696} _{146} _{P1} _{P1} _{24} _{24} _{24} _{24} _{24} _{24} _{24} _{24} _{25} _{1} _{1} _{1} _{1} _{24} _{24} _{25} _{1} _{1} _{1} _{1} _{1} _{1} _{1} _{1$	・保護者【学校は、子どもが地域や企業、他の学校など社会と 交流する機会を設けている】の肯定率は91.7%⇒89.7%⇒ 95.6%と推移。今年度が最も高い。学習としての企業見学、企 業や公共団体による出前学習等があり、ニーズに応えられて
共 同	学及 習び 共同 同 日 日 日 日 日 日 日 日 日 日 日 日 日 日 日 日 日	業や公共団体による出前学習等があり、ニーズに応えられている。
評価 ジャンル No. 生徒 年 1 2 3 4 無計 肯定 否定 無日 年日 ジャンル 肯定	Registration Re	・教員【いじめが起こった際の体制が整っており、迅速に対応することができている】の肯定率は3年間とも90%以上と高い水準。担任の聞き取りだけでなく、「いじめ・人権対策委員会」による組織的な対応があることが、教員を孤立化させないことにつながっている。【教員がどんなことでも気軽に相談し合え
	いる。 R3 20 18 3 0 0 41 92.7% 7.3% 0.0% 会議が教職員間の意思疎通や意見 R1 9 21 10 4 0 44 68.2% 31.8% 0.0%	るような職場の人間関係ができている】の肯定率は75.0%⇒73.8%⇒61.0%と低下。特に今年度は大きく低下。コロナ禍によるコミュニケーション不足や相談できないような障壁など、職場全体の問題として捉え、対応策をイノベーション会議で検討などの工夫が必要。【初任者等、経験の少ない教職員を学校会体で育成する体制が取れている】の肯定変は52.3%⇒
	24 交換の場として有効に機能してい R2 11 16 11 4 0 42 64.3% 35.7% 0.0% R3 8 22 6 5 0 41 73.2% 26.8% 0.0% R3 R3 R3 R3 R3 R3 R3 R	全体で育成する体制が取れている】の肯定率は52.3%⇒ 50.0%⇒58.5%と微増。「まったくそう思わない」が3年間とも 一定割合あり、詳しい調査が必要。
学 校 組 織	学校組織 26 数職員は学校の運営や改善に役立	
	教員がどんなことでも気軽に相談し R1 9 24 8 3 0 44 75.0% 25.0% 0.0% R2 9 22 7 4 0 42 73.8% 26.2% 0.0% R3 9 24 8 8 8 8 8 8 8 8 8 8 8 8 8 8 8 8 8 8	
	Tいる。 R3 6 19 11 5 0 41 61.0% 39.0% 0.0%	
評価 ジャンル No. 生徒 年 1 2 3 4 無 計 肯定 否定 無 年 デャンル 音定	28 学校全体で育成する体制が取れて R2 6 15 16 5 0 42 50.0% 50.0% 0.0% R2 70.0% 30.0% R3 70.7% 29.3% R5 R5 R5 R5 R5 R5 R5 R	・教員【研修・研究に参加した成果を、他の教員に伝える機会 が多く設けられている】の肯定率は68.2%⇒61.9%⇒56.1%と 段階的に低下。月に一度の職員会議終了後に伝達講習の時
研修	研修 研修・研究に参加した成果を、他の 一	間を確保しようと試みるが、実際には中々時間を取れないことが多い。年間計画に「伝達講習日」として数日入れることも検討したい。他にはコロナ禍で外部の研修が中止になることが
	R3 8 15 13 5 0 41 56.1% 43.9% 0.0% R3	多く、伝えるよりも前に「受講できていない」ことも背景にある。